産業建設委員協議会記録

開会年月日	令和4年2月7日
開会時刻	午前9時58分
閉会時刻	午後1時26分
出席委員名	◎上村和生 ○井村貴志 三野泰嗣 川口 浩
	北村 勝 野崎隆太 野口佳子 宿 典泰
	世古 明 議長
欠席委員名	なし
署名者	—
担当書記	森田晃司
協議案件	1 伊勢市道路整備プログラムの見直しについて
	2 上下水道部事務所の移転について
	3 伊勢市下水道事業経営戦略の見直しについて
	4 第3次伊勢市総合計画 中期基本計画（案）について
	5 空家等の対策について《報告案件》
	6 流域関連伊勢市公共下水道事業計画（第5期）の変更について《報告案件》
	7 管外行政視察について
説明員	都市整備部長、都市整備部次長、基盤整備課長、用地課長、
	住宅政策課長、産業観光部長、産業観光部参事、農林水産課長、
	農林水産課副参事、商工労政課長、情報戦略局長、情報戦略局次長、
	上下水道部長、上下水道部次長、上下水道総務課長、 下水道建設課長、その他関係参与

協議経過

上村委員長が開会を宣告し、会議成立宣言の後、直ちに会議に入り、「伊勢市道路整備プログラムの見直しについて」外5件を協議した。

次に「管外行政視察について」を議題とし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から現時点では見送りとし、今後視察が行える状況になったと判断した場合は本協議会において改めて諮ることと決定し、協議会を閉会した。

なお、詳細は以下のとおり。

開会 午前9時58分

◎上村和生委員長

ただいまから産業建設委員協議会を開会いたします。

本日の出席者は全員でありますので、会議は成立しております。

本日御協議いただきます案件は、お手元に配付の案件一覧のとおりであります。

議事の進め方については、委員長に御一任いただきたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長

御異議なしと認めます。そのように取り計らいさせていただきます。

【伊勢市道路整備プログラムの見直しについて】

◎上村和生委員長

それでは、「伊勢市道路整備プログラムの見直しについて」御協議を願います。

当局から説明を願います。

都市整備部長。

●森田都市整備部長

本日は大変御多用のところ、産業建設委員協議会を開催いただき、誠にありがとうございます。

本日の案件は、ただいま委員長から御案内のありましたとおり、「伊勢市道路整備プログラムの見直しについて」外3件の協議案件と報告案件が2件でございます。詳細につきましては、各担当部署から御説明申し上げますので、よろしく願いいたします。

◎上村和生委員長

基盤整備課長。

●上田基盤整備課長

それでは、「伊勢市道路整備プログラムの見直しについて」御説明申し上げます。

資料1-1を御覧ください。

まず、1の「概要」についてでございます。本計画は、都市計画道路を主とした市内の幹線道路におきまして、効率的で効果的な整備を推進するとともに、整備の着手時期を示すことにより計画的な土地利用を図るため、平成24年3月に策定したものでございます。このたび策定から10年が経過することから、社会経済情勢や事業の進捗状況等の変化を考慮し、見直しを実施いたしました。

次に、2の「見直し内容」でございます。見直しの流れについては、左のフローにありますように道路の区間ごとに整備重要度を設定し、それを基に整備時期の設定を行います。詳細については、資料1-2で御説明いたします。

5ページを御覧ください。整備重要度の設定に当たっては、5-2の道路機能からの評価と5-3の市の重要施策からの評価を行いました。

まず、道路機能については、表の①から⑩にある道路が持つ様々な機能について整理し、数値化しました。その評価については、庁内での検討及び伊勢市都市計画審議会委員の方々に意見聴取を実施いたしました。

次に、重要施策についてですが、市の重要施策として①の伊勢都市圏の幹線道路ネットワーク形成や、③の防災拠点や伊勢赤十字病院へのアクセス性の向上の観点から評価しました。

7ページを御覧ください。先ほどの評価の流れをフローで示しております。これによって整備重要度を高・中・低の3段階に分類しました。

10ページを御覧ください。整備時期の設定でございますが、資料中ほどのフローにありますよう、整備重要度が「高」となった路線を投資可能事業量及びネットワークの連続性を考慮し、おおむね10年以内に事業着手を予定する路線を前期着手路線、事業着手を検討する着手検討路線、着手時期が未定の路線を着手未定路線に分類しました。また、整備重要度の設定が「中」または「低」となっている路線は着手未定路線としております。

資料1-1にお戻りください。3の「見直し結果について」でございます。恐れ入りますが、資料1-2の9ページを併せて御覧ください。3の(1)の整備重要度の設定ですが、「高」となった区間は高向神田線の9-1、9-2、9-3、9-4の四つの区間と豊川浦田線、通称御木本道路の15-1、15-2の二つの区間、計6区間で、赤で示しております。そのほか、整備重要度に応じて色分けをし、示しております。

最後に、3の(2)の整備時期の設定ですが、併せて資料1-2の11ページを御覧ください。事業の主体が市で、「高」となった高向神田線のうち投資可能事業量及び幹線道路ネットワークの形成を勘案し、9-2の区間を前期着手路線とし、赤で示しております。そのほか9-1と9-3の区間については着手検討路線とし、青で示し、これら以外の路線については着手未定路線とし、緑で示しております。

以上、「伊勢市道路整備プログラムの見直しについて」御説明申し上げます。御協議賜りますようよろしくお願いいたします。

◎上村和生委員長

ただいまの説明に対しまして、御発言はありませんか。

よろしいでしょうか。

宿委員。

○宿典泰委員

これ私も平成24年のときにたしか審議会のほうの分科会があって、それに参加をさせていただいた経緯があってしております。

そのときにもいろいろと議論があって、何かその全体を見てみても、やはり現実の整備計画との関係から見ると、少し何か伊勢市の状況が分かっていない。その実態は分かりませんが、コンサルタントが伊勢市のこの地図の上に線を引いたみたいな状況で、いやいや、こういうところじゃなくて、ここをやはり延伸をして橋を架けて道路を造るということのほうが、渋滞対策であったりとか、人流の、また自動車の関係の、乗用車でも分散されるのではないかなというようなことを平成24年の時点でも申し上げた経緯があります。

これは計画は計画として国のほう、または県のほうとの補助事業の関係があるのでというような言い方をされてやられておりましたけれども、実際には、それ以後積極的に進められて予算投下がされたというところがあるのかどうかというと、どのあたりがそのような状況になっておるのかということがちょっと私は分からないので、今後の10年間の目標を立てるにしても、今現在、平成24年からの10年の中で大きく変わったという路線というのをちょっとお示しいただきたいんですけれど。

◎上村和生委員長

基盤整備課長。

●上田基盤整備課長

ただいまの宿委員の御質問にお答えいたします。

前回プログラムを行って以来、今日に至るまでのどのような進み具合かということで御説明させていただきます。

まず、前回の前期着手路線としましては高向小俣線が入っております。これは現在設計中でございまして、来年度には工事の着手を目標に進んでおります。あと中村17-1号線、これは県営陸上競技場と23号を結ぶ新設の道路でございまして、こちらのほうは令和3年7月14日に開通いたしました。

そのほか、高向神田線の9-2、9-3が前期着手路線となっておりますけれども、様々な課題などがありましてこの10年間は整備に至りませんでした。今回お示ししております9-2につきましては、引き続き前期着手路線としてお示ししたところでございます。以上でございます。

◎上村和生委員長

宿委員。

○宿典泰委員

実際のところ言って、中村の11号については、違う視点での道路整備の計画ということであったとは思うんですね。というのは、宇治浦田の問題であったりとか、観光としてのの

位置づけであったりとかということで、これは皆さん頑張ってやっていただいたんだとは思いますが、

結局は、私申し上げたいのは、この10ページの中で、整備重要度というのが上げられておいて、その中の「高」という高いものを並べても、やはりこの中でも前期着手の路線であったり、未着手ですよということで、未着手ということはもうしないということですね、やわな、当分の間。

そういう状況の中で、我々が道路として毎日の生活の中でどのように位置づけをしていくかということになると、なかなかこの評価自体は、私はあまりできないのではないかなと、こんなことを思うんです。

例えて言うなら、9-4の高向神田線があります。これは以前から申し上げておりますけれども、JRをまたいで来る路線であって、非常に新しく造るぞという路線についてはいろんな民家もかかるような状況で、今の路線を拡張しながらやっていくというようなイメージの話ではないんですね。ないんです。

それで、問題というのは、この9-4についてはJRの架橋との間の話なのかなと、こんなことも思うんです。これはもう最大で、その状況が今も橋梁の足の部分で非常に通りにくいような状況があって、元来道路プログラムというのは、そういったことを少しでも排除しながら新しい道路政策をやっていくということだと思えます。

ところが、今現在、ここの辺りは新しくというよりも既存の部分も通りながら、そして新しくそのJRを越えて二見街道と言うのか、昔の名前で言うと、そこへ、県道のほうへ通じるということに造ってあるんだけど、結局はそんなことよりも、部分箇所の改良というのか、そういう事業がなぜ進まないのかなということを感じますね。

それは当然鉄道事業者との問題もあってするんだから、これが10年かかるとすると、その10年の中で、どんな状況の中でこれをクリアしていくんかということになるじゃないですか。そのあたりというのが今回の計画の中で非常に担当が一番に悩む部分だとは思いますが、できそうなところは着手路線の中に入れておいて、そうでもないところはもう未着手というような意味合いに取れて仕方ないというのか。

この路線でいう高いと言われておるところについての線としてできないなら、部分箇所としてクリアをしていくような状況というのはできないものなのかどうか、そのあたりは都市整備のほうで十分図る必要があると思えますけれども、そのあたりいかがでしょうか。

◎上村和生委員長

基盤整備課長。

●上田基盤整備課長

御意見ありがとうございます。

おっしゃられるように9-4の路線、JR橋の下を通る道路のところは狭くなっておりまして、市民の方々には御不便かけておるところでございます。

まず、今回の道路整備プログラムにつきましては、優先順位ということでお示しさせていただきましたけれども、先ほど来、委員から意見いただいておりますように、都市計画

道路を進めていくことも重要ですが、部分的な改修によって、例えば交差点とかが安全になったり、利便性が上がったということも十分考えられます。

それは必要に応じて、いろんな自治会からとかの情報も得ながら整備を検討してまいりたいと、そのように考えます。以上でございます。

◎上村和生委員長

宿委員。

○宿典泰委員

なかなか担当者のほうからは答えにくい部分だと思います。それは予算ということもありますからね。

ただ、考え方として、今回10ページにある9-1から9-4まで整備重要度として高いぞというところであったとしても、10年以内に着手するというところが1か所ですよ。あとの3か所は何十年かかるねんと、こういう話じゃないですか。

その路線の重要度というのほどのように考えておるのか、以前のプログラムをつくられたときにも申し上げたんですけど、なかなか進んでいきませんよね。

このほかに我々が都市計画審議会のメンバーでしたかね、それにアンケートを取っていただいたことがあります。それで、あのアンケートも非常に書きにくかったというのは、何を視点にこのアンケートを取るとんのかということが全然受け取れなかったのも、もう辞められた小山議員も都市計画審議会で私ともお話したんですけど、あの方も全然この意味が分からんと。このアンケートの察する意味が。

そういう状況の中で、この整備重要度が高いほうになったんかどうかということも含めてちょっと疑問に思ったんですけど、あのアンケートについては批判はなかったですかね。

◎上村和生委員長

基盤整備課長。

●上田基盤整備課長

意見聴取をさせていただいた件についてお答えいたします。

5ページにありますように、5ページの表であります。これ、道路の機能ということで1番から10番までお示ししておりますけれども、意見聴取させていただいた結果によって、どういった機能が強く世間から求められているのかということで、評価をするに必要ということで、この重み全部足すと100になっておりますけれども、この中では歩行者、自転車通行機能が15.8とか、こういった偏りといいますか、それを意見聴取させていただいた、そういうことでございます。以上でございます。

◎上村和生委員長

宿委員。

○宿典泰委員

多分そのアンケートについては、随分批判があったのではないかなということを感じてはいますが、私もこの指標の中で、どの路線をどういうふうにしてやっていくかということが固定してこの目的としてはなかったもので、一般的な話としてはやったけれども、Aの路線は渋滞対策がもう重要やぞというようなことがある。Bは、いや、歩行者が通れるような状況もないから、やっぱりこの辺りは歩道も造れるような拡幅としての優先順位があるとかいう、この個別の路線で意味合いが全然違ったとは思いますが、そういうところを私も書かせていただいて、その評価が今回この重要度の高いほうになったということになると、非常に疑問な感じがするんです。

10年以内に着手するよというところが1か所なわけですから、結局できるところだけ上げてあるのかなという評価になるじゃないですか。

そのあたりは、部長、この評価の中で、高いとしたところがやはり優先順位がもう高いということに捉えたならば、その中で10年と言うて1か所しかやらないということに書いてあるわけですが、このあたりはどうやってしてやっていくのかということと、これから総合計画の審議があるわけですが、伊勢のまちづくりの基本にはやっぱりこの道路整備というのがあると思うんですが、そのあたりはどのように考えてみえるんでしょうか。

それで、言うならば、もう十年一昔みたいな話はないんですよ、もう。このコロナ禍で分かったというのは、いろんなことが十年一昔になっていないんですよ、もう本当に。すごいスピードで進んでおいて、その中で、伊勢でいうと公共交通というのはそれほど高い順位ではないと思うんです。自動車でもう、ほとんど乗用車持って、伊勢市内を運転されていますのでね。

そういうことから見ると、この計画をよしとして飲み込むかどうかというのは、ちょっとこれはと思うんですが、部長、そのあたりはどうでしょうね。

◎上村和生委員長

都市整備部長。

●森田都市整備部長

何点かいただいて、御意見ありがとうございます。

まず、部分改良等のお話もいただいたんですが、こういった生活に密着したような部分、今回のこの計画につきましては、幹線道路という順位で整備していくかということをもとめたものでございます。

そういった生活に密着した道路であったり、そういう部分改良のところについては様々な要望もいただいております、そういった中で、事業効果や費用、緊急性など様々な観点から検討して、今後も事業の推進ということを図っていきたいと考えております。

また、今回のこのプログラムで、10年で1か所の着手かということですが、こちらにつきましては、現在やっている事業としましては、橋梁の老朽化、度会橋の渋滞緩和ということで、高向小俣線において宮川橋の架け替えを含む事業を実施しております、これは御遷宮に向けて事業を進めております。

伊勢市の財政状況、そういったものも全体を勘案しますと、なかなか幾つもの路線に手をつけるということは難しい状況でございますし、また、事業というのはできるだけ短期間で事業効果を出したいということもございまして、そういったことから、事業に着手したら早期に完成をさせるということも重要なことと考えておりますので、現時点におきましては、まず着手しているものを優先して、これからの事業については、改めて事業順位をつけてその推進を図るというような計画で考えてございますので、よろしくお願いたします。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

部長からのお話聞きました。私が申し上げておることも御理解をさせていただいたとは思いますが、やはり道路整備プログラムというのは、その道路を整備することによってまちづくりとしてどう変わっていくんやということが意図がないといかんと思うし、その道路を造ったときに、そちらへ行くことによって渋滞対策になるんやとかということがやっぱり明らかになるような状況やないといかんと思うので、今いただいておりますその路線の中で、これがもう固定していくということなら、これからの問題としては、人口が減り、空き家も増えて、こういう道路よりこちらの道路のほうがすごく交通量多いですよというようなことが、どこで評価されていくんかなというようなことも不思議でなるのですよね。

だから、この御説明いただいたような状況のことも非常に分かるんですけど、やっぱりそのあたりは10年の中で一つ終わり、二つ終わりということであればいいんですけど、そういうことじゃなくて、また持ち越しやって、高い順からということになったときに、それは財政だけの問題というわけにはいかんと思うので、そこら辺はもう一度庁内のいろいろな高い部分について、また道路のプログラムの見直しということになるとちょっとあれかも分かりませんが、今現実問題の見直しということをやってもらったほうがいいんじゃないかなというようなことを非常に感じますので、これは今日お答えいただくような話じゃないので、御検討していただいて、庁内でまとめていただければ結構かなと思います。よろしくお願いたします。

◎上村和生委員長
他によろしいですか。
野崎委員。

○野崎隆太委員

すみません、宿委員がいろいろ詳しく言ってくれたので、ちょっと簡単に1点だけお聞かせいただければと思います。

今回、道路整備プログラムは都市計画道路を中心に書かれておるというのは理解をした上で、あえてお伺いするんですけども、この10年間の計画を決めていくに当たって、今

宮川橋の架け替えなんかしてもらっておるとはいうものの、例えば9ページの地図なんかを見ても、宮川左岸と言われるところに対して、この10年間の計画というのがあまり見えないなというふうにも思います。

旧23号線と言われる県道の鳥羽松阪線のところは青ですけども、残りそんなに大きな計画が特に宮川左岸にはないんですけども、都市計画道路以外の道路の計画が載っていないというのは前提としてあるにせよ、この宮川左岸の道路整備についてどんなふうにお考えか、ちょっとお聞かせください。

◎上村和生委員長

基盤整備課長。

●上田基盤整備課長

ただいまの野崎委員の御質問にお答えします。

主に小俣町地内の街路の状況についてと今後道路事業はどのような状態かということでございます。

まず、現在、高向小俣線のほうを進めておりまして、ちょうど交差点が南部防災倉庫の前に来るような状況になって、そこから宮川駅のほうに向いても、こちらは小俣1号線と申しまして都市計画道路ではないんですけども、現在進めております。

あと、少し古い話になりますけれども、平成24年3月に宮川駅と小俣総合支所を直結するような道路というのは、以前なかったところに新しく整備ができました。

あと生活道路、市民に密着した道路なんですけれども、そちらのほうにつきましては、この道路整備プログラムで優先順位をつけていくというものではございませんでして、自治会からの要望とか危険箇所の情報とかを頂きながら、安全性が高まるような整備を必要に応じて進めていく、このような状況でございます。以上でございます。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

生活道路に関しては、それぞれ個別の自治会等からの要望に応じてそれぞれの改良をしていただくというような形の御答弁だったかと思うんですけども、さっきの9ページの図を見ても、あとちょっと6ページの鳥瞰図なんかを見てもらうといいかなと思うんですけど、この間本会議場でも別の話でしましたけれども、合併してから16年今たっておるわけですけども、何かこの鳥瞰図とかを見ると、何か旧伊勢市を丸で塗ったみたいなそんな図にちょっと僕は感じる場所もあるんです。

何か合併後の効果を、先ほど宿委員もこういった道路を見直すことでどういうふうにまちづくりがしたいんだというような具体的なビジョンがもっと見えるようにせないかのじゃないかとか、それによってまちが発展するような方向性でというような話を宿委員もおっしゃっていましたがけれども、同じように、ちょっとこの図だけ見ると、この道路整備のプログラムの中で、合併したことによる効果をどうやって得ようかというのがあまり感

じないんですけれども、そのあたりはどんなふうにお考えですか。

◎上村和生委員長

基盤整備課長。

●上田基盤整備課長

合併後でございますけれども、先ほどもお話申し上げました宮川橋の架け替えということで高向小俣線を進めておるところでございます。

これによって、左岸と右岸の地域間の交流というのは生まれると、そのように私ども認識しております。御理解賜りますようよろしくお願いいたします。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。

左岸と右岸の交流というよりは、例えばまちにはそれぞれ歴史があるので、どういうふうに人口を移動させようとかそういう話というわけには、なかなか伊勢市というまちはいかないと思うんですけれども。例えば今人口が増えている地域、先ほど僕がちょっとあえて指摘したのは宮川左岸に今もう人口の25%以上が多分住んでいるんじゃないかと思うので、そういったことも含めて、まちを発展させていくビジョンというのがやっぱり、交流というのじゃなくて、ここに道路を引くと、こういうふうに住宅地が新しくできるんじゃないかとか、そういったビジョンが少なくとももっと左岸地域には僕は見えてもいいかなと思っているので、あえて御指摘を申し上げた次第でございます。

これ以上は、先ほどもありました都市計画決定に基づく都市計画道路の話なので申し上げますけれども、ちょっと人口がどういうふうに動いているか、人口動態とか、そういったものもぜひとも考慮いただいて、前、委員会で指摘させていただいた、あのときは教育民生委員会でしたけれども、新しく小学校ができるから道路を開発したらどうやと、二見の話でもお話させていただきましたけれども、同じように、ごみ処理センターができるからその周りの道路どうすんのかとか、この後出てくる上下水道の事務所の移転があるからとか、その辺の周りの道なんかも多分開発して新しくまちをつくっていくようなことを考えることもできるかなと思うので、これ以上はここで申し上げますけれども、もうちょっと左岸地域にも目を向けていただければなと思います。以上です。

◎上村和生委員長

他に御発言はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長

ないようでありますので、本件につきましてはこの程度で終わります。

【上下水道部事務所の移転について】

◎上村和生委員長

次に、「上下水道部事務所の移転について」を御協議願います。

当局からの説明を願います。

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

それでは、「上下水道部事務所の移転について」御説明いたします。

資料2を御覧ください。

始めに、1の「現状」でございます。現在上下水道部は5課103人が二見総合支所と中須水道管理センターで業務を行っています。

次に、2の「課題」でございます。（1）の施設の老朽化としまして、施設類型別計画におきまして、二見総合支所は令和10年度をめどに複合施設に機能移転し、その際、上下水道部の機能は置かないこととしています。

次に、（2）の災害対応として、二見総合支所は津波浸水、土砂災害のリスクがあり、中須水道管理センターは宮川洪水のリスクがあります。このため、これらの事務所での災害対応が困難であると想定しています。

次に、（3）事務所の分散としまして、二見と中須に分かれていますことから、業務の連携など効率化の観点から集約することが必要でございます。

次に、3の「移転の必要性」でございますが、施設の老朽化による公共施設の計画的管理により移転することが必要であり、災害対応の観点からは、現在の事務所では対応が困難であるため、ライフラインの復旧拠点となる事務所の整備が急がれます。

次に、4の「移転先」でございますが、経費削減の観点から、利用予定のない市有地の中から検討し、その結果、災害リスクが少なく、また、災害対応を行う敷地も確保ができる小俣浄化センター跡地を移転先としました。

恐れ入りますが、資料の3ページを御覧ください。3ページの中央にございますのが小俣浄化センター跡になります。

次に、4ページを御覧ください。概要としまして、敷地面積は約6,741平方メートルで、国道23号から2.1キロメートルの距離にあります。主な災害リスクは相合川洪水浸水約30センチメートルですが、建物のかさ上げなどで浸水回避を考えております。

恐れ入りますが、2ページにお戻りください。

次に、5の「事務所機能の基本方針」でございます。

基本方針は、まず、強靱として、最新の耐震基準に対応し、災害時に応急復旧活動などが迅速、継続的に行うことができ、次に、安全として、運転監視機能の集約、市民の利便性を考慮し、最後に、持続として、環境負荷の低減、ライフサイクルコストの縮減が図れる庁舎としています。

次に、6の「事務所等の規模」でございますが、総務省及び国土交通省の面積算出基準により算定した面積に、災害対応に必要なスペースなどを勘案し、決定したいと考えております。また、倉庫等につきましては現有の面積を基本に決定したいと考えております。

次に、7の「概算事業費及び財源」でございますが、事務所などの建築費などで約10億円、浄化センター解体費で約4億円、総事業費は合計で約14億3,000万円を見込んでいます。財源については、企業債を充当することになりますが、下水道事業債については通常の管渠整備と同様交付税の措置を受けることができます。

次に、8の「移転スケジュール」ですが、令和4年度に解体の準備に入り、令和8年1月から新事務所での業務開始を見込んでいます。

最後に、9の「今後の予定」として、上下水道事業審議会で委員から意見をいただく予定です。

以上で「上下水道部事務所の移転について」の説明を終わります。よろしく御協議いただきますようお願いいたします。

◎上村和生委員長

ただいまの説明に対しまして、御発言はありませんか。

三野委員。

○三野泰嗣委員

何点か質問させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

上下水道事務所の移転についてなんですけれども、幾つかの候補から検討していただいたと思うんですけれども、この小俣浄化センター跡地に決まったいきさつとございますか、移転するメリットなどをちょっと教えていただければと思います。

◎上村和生委員長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

少し繰り返しになりますが、財政負担の軽減と市有地の有効利用の観点から、今後利用予定のない市有地の中で検討を行いまして、具体的には消防本部の跡地などを検討しました。

我々としては、課題解決の視点から優先しましたのはやはり災害対応ということで、災害リスクと、あと敷地の広さなど検討を行いまして、小俣浄化センターが一番いいということで判断させていただきました。以上です。

◎上村和生委員長

三野委員。

○三野泰嗣委員

ありがとうございます。

小俣浄化センター解体に対して4億円ほど計上されているんですけれども、例えば小俣浄化センターを改修して利用するようなことは検討されたんでしょうか、ちょっと教えてください、すみません。

◎上村和生委員長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

施設の有効利用ということで、既存の建物の検討も行いました。ただ、もともと汚水処理を行う汚水処理施設として建設した建物でございますので、やはり構造上の問題から利用できないと判断させていただきました。

それから、事務所棟というのもございますが、こちらは昭和46年頃建設した建物でございます。老朽化や耐震性の観点から解体のほうを選択させていただきました。以上です。

◎上村和生委員長

三野委員。

○三野泰嗣委員

ありがとうございます。

最後に、この小俣浄化センターなんですけれど、ちょっといま一つアクセスがそれほどよくないように思うんです。国道23号線から来る場合など、ちょっと不便なようにも見えるんですけれど、その点はちょっといかがかなと思ひまして。

◎上村和生委員長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

小俣浄化センター跡地につきましては、こちらから地図を見ていただきますように西側へ延びる市道と南側のほうへ延びる市道がございます。我々としましては、西側へ延びる、JA小俣支店のほうまで延びる市道になりますが、こちらのほうは幅も広いので、こちらのほうからアクセスのほうを誘導していきたいと考えております。

国道23号からは、市場の前を通りまして小俣総合支所のほうに向かう県道でございますけれども、この途中に南側へ延びる道と合流するところがあるんですが、こちらは信号機もない交差点ですので、もうちょっと小俣総合支所のほうに行っていただきますとファミリーマートの伊勢おばた店がございます。そちらの交差点に信号がついております。こちらを北上していただきますと、先ほど案内させていただきました西側へ延びる道とまた交差します。こちらにも信号機がついておりますので、案内板等でこちらのほうから誘導したいと考えております。以上です。

◎上村和生委員長

よろしいですか。

○三野泰嗣委員

はい、よろしいです。ありがとうございます。

◎上村和生委員長

ほかに。

川口委員。

○川口浩委員

事務所の集約、統合ということなんですけれども、配置されている人員数というのはどうなるのでしょうか。例えば業務の効率化でスリム化するとか、そういった効果というんですかね。どうなるのでしょうか、教えてください。

◎上村和生委員長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

基本的には、現在建物としましては103人ということで集約ということで入るようには考えておりますが、この後事務所も建てますし、水道と下水道事業のほうも事業のほうも規模が変わったりしますので、この機会にもっと効率化が図れて、人員も削減できて、経費削減できればということも当然考えながら事業を行っていきたいと考えております。以上です。

○川口浩委員

分かりました。

◎上村和生委員長

よろしいですか。

他に御発言はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長

御発言もないようですので、本件についてはこの程度で終わります。

【伊勢市下水道事業経営戦略の見直しについて】

◎上村和生委員長

次に、「伊勢市下水道事業経営戦略の見直しについて」を御協議願います。

当局からの説明を願います。

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

それでは、「伊勢市下水道事業経営戦略の見直しについて」御説明いたします。

資料3-1を御覧ください。

始めに、「見直しの目的」でございます。下水道事業経営戦略は平成28年度に策定し、その後、平成30年度に第5期事業の着手に当たり一度見直しを行っております。

今回最初に策定しましてから5年が経過し、中間年度になりますことから、これまでの実績を踏まえまして、投資財政計画を中心に見直すとともに、これまで流域関連公共下水道事業と特定環境保全公共下水道事業の二つの事業で策定していたものを、決算などと比較ができるよう一つに統合するものでございます。

次に、2の「見直しの内容」でございます。見直し案につきましては、資料3-2のとおりでございますが、主なものにつきまして御説明いたします。

始めに、(1)の令和4年度から8年度までの取組事項でございます。

始めに、未普及対策は第5期事業計画区域の整備をこれまでどおり進めます。

次に、効率化・最適化について、経費削減のため当初の予定を早めまして、令和8年度を目標に五十鈴川中村浄化センターを廃止し、宮川浄化センターに接続替えを行います。

次に、浸水対策として、勢田川流域等浸水対策実行計画に基づきました排水路整備とポンプ増設を行います。

次に、老朽化対策は、昨年度策定しましたストックマネジメント計画に基づき、計画的に施設の改築、更新を行います。

次に、防災安全対策としまして、河川氾濫などの災害に対応するため、雨水ポンプ場などの耐水化対策を行います。

最後に、事務所移転としまして、先ほど御協議いただきました上下水道部事務所の移転を行います。

次に、2ページをお願いします。(2)の投資計画でございますが、先ほど御説明しました取組事項を踏まえまして、投資計画について見直しました。

今後5年間の建設改良費は、見直し前の179億2,800万円に対し、見直し後は193億5,100万円となり、14億2,300万円の増加となります。これにつきましては、雨水事業について勢田川流域等浸水対策実行計画に基づく幹線排水路整備の基本設計が完了しましたこと、ストックマネジメント計画が具体化しましたこと、事務所移転事業について令和9年度に予定していたものを前倒しとして計画期間内に入れましたことなどによる増加です。このため、主に未普及対策事業である汚水の事業費を約17億円減額しています。

次に、(3)の財政収支計画の見直しです。主な項目につきまして御説明いたします。

下水道普及率は、未普及対策事業費を削減しましたことなどにより、令和8年度末で見直し前に比べ2.9%下がりました66.4%を見込んでおります。下水道接続率は83.3%を見込んでおり、汚水処理区域整備率は昨年度全体計画面積を見直し減らしましたことから71.1%と、見直し前に比べて増加する見込みです。

有収水量と下水道使用料は、未普及対策事業費の減額と新型コロナウイルスの影響による大口使用者の落ち込みなどを見込みまして、5年間の平均でそれぞれ45万2,000立方メートル、7,300万円の減少となります。

純損益は平均で純利益を見込んでおりますが、下水道使用料全てで賄い切れる状況ではなく、一般会計からの基準外繰入れを見込んでの利益確保となるものです。

企業債につきましては、事業費が増加することなどから借入額が28億2,500万円増加し、

そのうち下段の括弧書きに記載していますが、資本費平準化債を毎年3億円借り入れることとします。その結果、令和8年度末の企業債残高の見込みは377億6,600万円となります。

最後に、一般会計からの繰入金につきましては、見直し前は毎年21億5,000万円でしたが、資本費平準化債を活用することにより、毎年20億5,000万円となる見込みです。

最後に、そのほかの主な見直し、修正内容につきましては、資料3-3に整理していますので、後ほど御高覧いただきたいと思います。

説明は以上となりますが、本日説明いたしました見直し案につきましては、今後上下水道事業審議会でご審議いただき、再び本協議会の開催をお願いし、結果を御報告申し上げたいと考えております。よろしく御協議いただきますようお願いいたします。

◎上村和生委員長

ただいまの説明に対しまして、御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者なし〕

◎上村和生委員長

御発言もないようですので、本件についてはこの程度で終わります。

【第3次伊勢市総合計画 中期基本計画（案）について】

◎上村和生委員長

次に、「第3次伊勢市総合計画 中期基本計画（案）について」を御協議願います。

当局からの説明を願います。

情報戦略局次長。

●大西情報戦略局次長

それでは、御説明申し上げます。

資料4-1を御覧ください。

1の「背景」でございますが、第3次伊勢市総合計画につきましては、前期基本計画が令和3年度をもって計画期間が終了するため、中期基本計画を策定するものでございます。昨年2月の総務政策委員会において策定方針をお示しし、策定を進めてまいりましたが、このたび素案を作成いたしましたので、本日お示しするものでございます。

2の「経過」でございますが、記載のとおり、これまで5回の審議会を開催し審議を行ってまいりました。

3の「計画の概要」について御説明申し上げます。まずは基本的事項でございますが、1で計画の位置づけについて記載をしております。現在平成30年度から令和11年度を計画期間とする第3次伊勢市総合計画の基本構想の計画期間中でございます。それを実現するための施策の基本的な方針等を体系的に示すものとし、前期基本計画に引き続き中期の基本計画を策定するものでございます。

基本構想につきましては、参考といたしまして資料4-3に添付をしておりますので、また後ほど御高覧ください。

2の計画期間につきましては、令和4年度から7年度までの4年間でございます。

3の計画の構成につきましては、五つの要素から構成をしております。

まずは(1)の取組方針でございますが、こちらは前期基本計画を継承する内容となっております。

2ページをお願いいたします。

(2)の分野横断課題でございますが、こちらは前期基本計画のまちづくりの主要課題の見直しを行っており、各分野における施策の複合的な成果によって取り組むべき主要課題として設定をしております。項目といたしましては、①の人口減少、少子化への対応など八つの課題を設定しております。

また、別枠といたしまして、SDGs及び新型コロナウイルスに関連する項目を設定いたしました。この二つの課題を別枠といたしましたのは、SDGsにつきましては、複合的な課題であり、ほぼ全事業を網羅しているということがございます。そういったことから、進行管理を行うに当たりまして、ほかの課題のようにポイントを絞って実施することが難しいと判断をいたしました。また、新型コロナにつきましては、4年間の計画にわたるものかどうか現時点で見通せないことから、別枠としたものでございます。

次に、(3)の分野別計画でございます。こちらの分野設定につきましては、基本的には前期基本計画を継承しております。

次に、(4)の指標でございます。2種類の指標を設定しております。①のモニタリング指標でございますが、こちらは中期基本計画において新たに設定するものでございます。市の現状や推移等について、統計情報等の客観的な情報により明らかにし、施策等を検討するに当たっての基礎資料とするとともに、市民の皆様や関係者の方々と共有を図るために設定をしようとするものでございます。

それから、もう一つの指標が②の目標指標でございます。こちらは、前期基本計画においても設定をしておりましたが、各分野におけます目標及び進捗状況を明らかにするものとして設定するもので、各分野におけます下位の計画と一体的管理を可能にするように設定をしております。

最後に、(5)の各分野に関連する下位計画一覧でございます。これは各分野に関連する下位計画を一覧として整理したものでございます。

以上が計画の概要でございます。

3ページを御覧ください。

4の「パブリックコメントの実施」についてですが、2月22日から3月22日までの間実施する予定でございます。

5の「今後の予定」でございますが、パブリックコメントを実施した後、計画案を整理し、総合計画審議会を開催し、御審議、答申を頂きます。その後、総務政策委員会、教育民生・産業建設委員協議会で御協議をいただいた後、6月の定例会に議案として御提出申し上げたいと存じます。

続きまして、中期基本計画案の内容について御説明をいたしますので、資料4-2を御覧ください。

資料4-2でございます。1ページにつきましては、先ほど御説明申し上げましたので省略をいたします。

2ページをお願いします。

こちらの表は各常任委員会の所管別の対象箇所をお示ししたものでございます。

3 ページには、取組方針を記載しております。

4 ページをお願いいたします。

4 ページから 8 ページが分野横断課題でございまして、それぞれにおいて現況、課題、取組方針を整理しております。

9 ページを御覧ください。

分野 1 の自治・人権・文化でございまして、こちらを例に御説明させていただきますと、分野ごとに目指す姿と関連する施策及びその主要課題を体系図として示しております。また、各施策の推進方針及び関連する S D G s の目標を整理しております。

10 ページをお願いいたします。

御覧のように分野の現況、課題、今後 4 年間の方向性について分野全体及び施策ごとに整理をしております。以下、分野 8 の市役所運営に至るまで同様に整理をしております。

すみません、恐れ入ります。33 ページをお願いいたします。

33 ページでございまして、モニタリング指標の一覧でございまして、

1 枚おめくりいただき、34 ページをお願いいたします。

こちらが各分野におけます目標指標でございまして、施策ごとに整理をしております。実績値につきましては、新型コロナウイルスの影響がありまして直近だけの数値では適切に比較をすることができない場合がありますことから、おおよそ 4 年度分を記載しております。年度別の目標値につきましては、令和 7 年度を最終の目標年度としておりまして、下位の計画がある施策につきましては、その下位計画との整合を図っております。

39 ページをお願いいたします。

各分野に関係いたします下位計画の一覧でございまして、分野ごとに整理をしております。

以上が計画案の内容でございまして、

恐れ入ります、資料 4 - 4 をお願いいたします。

資料 4 - 4 でございまして、こちらは前期基本計画の令和 2 年度の実績に係る進行管理の資料でございまして、資料の構成につきましては、(1) に記載のとおり、前期基本計画の序章において各政策を横断する重点的な課題として設定いたしました七つのまちづくりの主要課題、この状況を 2 ページから 16 ページに記載しております。

また、(2) に記載のとおり、前期基本計画の分野別計画における各節の状況を 17 ページから 104 ページに記載をしております。下段の表は各常任委員会の所管別の対象箇所をお示ししたものでございまして、

内容について概略を御説明させていただきます。3 ページをお願いいたします。

まちづくりの主要課題の状況につきまして、(1) の子どもを産み育てやすい環境づくりを例に御説明をいたします。

上段は前期基本計画に記載されております内容でございまして、転記をしております。その下に課題の現状と課題に対する取組状況を記載しております。シートの見方につきましては、2 ページを御参照いただければと存じます。

続きまして、少し飛びまして 71 ページをお願いいたします。

分野別の進行管理でございまして、各節ごとにシートを作成してございまして、この節は農

林水産業でございますが、このシートを例に御説明申し上げます。

主に三つの要素で評価をしておりまして、それぞれA、B、Cで評価をしております。上段左側にBと記載しておりますが、これはこの節、農林水産業の総括評価でございます。その右側に総括評価に対する説明及び今後の取組方針を整理しております。また、中段のCと記載しておりますのが、節の目指す4年後の数値目標の進捗状況でございます。また、下段のBと記載しておりますのが、重点課題の成果指標の進捗状況でございます。そのほか最下段には総合計画審議会から御指摘いただきました項目及びその対応状況を記載しております。

また、次ページには、この節に関連する実施事業を掲載しております。シートの詳しい見方につきましては、18ページに資料がございますので、また後ほど御参照いただければと存じます。

すみません、最後に105ページお願いいたします。

進行管理のところでお説明いたしました三つの要素につきまして、各常任委員会の所管別に整理した表でございます。

それから、また106ページ、次のページには評価結果の一覧も添付をしておりますので、御高覧賜ればと存じます。

以上、御説明申し上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎上村和生委員長

ただいまの説明に対しまして、御発言はありませんか。

暫時休憩します。

休憩 午前10時59分

再開 午前10時59分

◎上村和生委員長

休憩を解き、会議を再開します。

11時10分まで休憩とします。

休憩 午前10時59分

再開 午前11時08分

◎上村和生委員長

休憩を解き、会議を再開いたします。

当局から訂正のほうが求められていますので、当局のほうよろしくお願ひします。

情報戦略局次長。

●大西情報戦略局次長

すみません、お時間いただきありがとうございます。

資料のほうに1点誤りがございますので、訂正をお願いしたいと思います。

資料の4-4をお願いいたします。

資料4-4の1ページでございます。下段に各所管別対象箇所という表があるかと思
います。その中に分野別計画が1から8までございまして、分野別計画の1のところに
「自治・人権・文化」と表記がされております。これ正しくは「市民自治・市民交流」で
ございまして、17ページをお開きいただけますでしょうか。

17ページに前期基本計画分野別計画進行管理という資料がございまして、その第1章
「市民自治・市民交流」と記載してございます。こちらの内容が正しい内容でございま
すので、訂正をお願いしたいと思っております。

申し訳ございませんでした。よろしくをお願いいたします。

◎上村和生委員長

よろしいでしょうか。

では、引き続き会議を再開いたします。

ただいまの説明に対しまして、御発言はございませんか。

野崎委員。

○野崎隆太委員

それでは、ちょっと数点お伺いをさせていただければと思います。

まず、ちょっと先に個別の小さいところから聞かせてもらおうと思うんですけれど、
農業分野のことでお伺いをさせていただければと思います。

農業の分野、今回ちょっと計画の中では目標が前回とちょっと変更になっているような
場所があるような気がするんですけれども、このあたり、前は担い手というのを中心に
目標値を定めていたと思うんですけれども、今回の計画では少しその辺の表現が変わっ
ているんですけれども、ここについてまず御説明をいただけますでしょうか。

◎上村和生委員長

農林水産課長。

●野中農林水産課長

ただいまの質問にお答えいたします。

前回目標といたしました担い手者数につきましては、今その担い手者に限らず人口が減
っている中、なかなかその目標を横ばい程度にしかできないような状況にございます。

それで、総合計画を、審議会のほうでももう少し前向きな目標を定めてはどうかとい
うような御意見もありまして、今回は担い手の農地利用集積率というように、例えば個人
ではなかなかやれなかった小さい農家の方がおやめになるとか、お休みになられる場合
に、大きくやられている担い手という方に任せていく率を上げさせてもらいました。

これによって、もうやめようかなと思っている方が担い手に預けたり売ったりすること
によりまして、農業が続けられていくというふうを考えております。以上です。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。現実的な問題として、これ避けて通るような話じゃないと思うので、割とはっきりと言ってしまうかもしれませんが、高齢化社会か、そういった中で、例えば計画期間中に、例えば農業従事者が3人亡くなって、そこから新しく二人新規で就農されたら、どうしても就農者数というのは減っていくと思うんです。これはもう現実的な話として仕方がないと言ったらあれですけども、人の寿命というのは必ずみんな、僕も含めて訪れるわけですので、当たり前の話なので、そういった意味では、今回の目標変更というのは、僕は正しい方向かなというふうに思います。

ただ1点、ちょっと分からないのが、この集積率というのが高まったときに、結果として伊勢市の農業が発展したかどうかとか、これによって伊勢市の農業というのは、第1次産業はこういうふうによくなったんだよというのが集積率だけで分かるのかというのが、僕にはちょっとなかなかそれがぱっとイメージができないんですけども、そのあたりどんなふうにお考えでしょうか。

◎上村和生委員長

農林水産課長。

●野中農林水産課長

確かに担い手の方についても、高齢化したり、やめられたりする方も出てくるかと思えます。そこで、圃場整備などによって農地を大区画化していったりすると、大型の機械などが入って、より効率のいいような耕作が可能になります。

そうなりますと、大きくやられておる農家の方が、そのやめようかなと思っている小さな担い手の方のところを受け持ってもらえるというふうなことになりますので、担い手が借りやすくなることになると農業は続けていっていただけて、農業振興は図れるというふうに考えております。以上です。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。今御答弁いただいたことは分かるんですけども、結果として集積率だけは上がっているけれども、例えば出荷額が上がっていないであるとか、もしくは今御答弁いただいた中で、大型の機械か、そういった物を入れていくことが可能だというような話があったんですけども、それがやっぱり施策として新しい担い手を育てるところに、今まで一番のメインにしていたところが少しシフトして、スマート農業という言葉も実際ありますけれども、例えばそれがいきなりテレビでやっているようなすごいスマート農業をしようとか、ドローンを飛ばそうとか、そこまでいかななくても、例えば一人の人が今まで1だったものが1.2の仕事ができるような機械であったりだとか、設備であった

りだとか、そういったものに補助をしていくような方向性が計画の中から見取れるといいかなというふうに思うんですけども、単に集積率だけではなくて、そういった方向にちょっとずつ政策も転換をしていこうというようなことで理解をしてよろしいですか。

◎上村和生委員長

農林水産課長。

●野中農林水産課長

その辺のスマート農業とかに関しましては、実際に地味ではありますが、例えばハウスの中とか、水産業におきましてもノリのところとかを遠隔で監視して、実際に畑に行かなくても見えるというようなそういったものもございます。

それで、ここの総合計画の中の指標にはございませんが、スマート農業、またICTに関しましては、今後の下位計画の見直し等も控えておくことから、そこらで検討を進めてまいりたいと考えております。以上です。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。下位計画、農業振興の計画だと思うんですけども、それらにもこれから注視をさせていただければというふうに思います。

ちょっと全体のことでお伺いをしたいんですけども、まず、横断的な計画のことで分野横断課題か、こちらのことでちょっとお伺いをさせていただきたいと思います。

少し他の委員会の項目にも、これ実際横断的なもので触れるので、そのあたりだけでも注意をしながらお話をさせていただこうかなと思うんですけども、まず、ちょっと5番のこのデジタル技術の活用というところで、大きくちょっとここだけピックアップしてお話をさせていただきたいと思います。

デジタル技術の活用というふうにここに大きく書いてあるんですけども、例えば私どもの所管の産業の分野なんかをあえて見てみますと、この産業なんかこれからデジタルでいろんな世界中がどんなことをしていこう、あんなことをしていこうというふうにお話をしておるようなのが今の世界の世の中だと思うんですけども、例えばメタバースであるとかあんな話もしながら、そもそも仮想空間でどうのこうのということまで世界は進んでいるわけですけども。

例えばこの産業のページ、24ページ、25ページを見たときに、デジタルという言葉は多分ないと思うんです。これは伊勢市のまちをどんなふうにつくっていこうかというような計画だと思うんですけども、例えばこの計画をつくることで、さっき言ったこれからの伊勢市が出す補助金の方向性であるとか、これから出していくような施策の方向性を出していくことで、この地域の産業とか経済のレベルとかスキルをアップさせていこうという根幹の計画だと僕は思うんですけども。

このあたり、例えばここ以外でもデジタルの話はほかのページでもちょっと目標として

足りていなかったりするんじゃないかなというふうにも思うんですけども、この横断的課題とその後ろの9ページ以降のこの個別のところと、ちょっとリンクが弱いんじゃないかなというふうに考えるんですけども、ちょっとデジタルだけ先に取り上げましたけれども、どんなふうにお考えですか。

◎上村和生委員長
情報戦略局次長。

●大西情報戦略局次長

分野横断課題と分野別計画のつながりというか、リンクについての御質問でございます。確かにデジタル、今回分野横断課題で挙げさせていただいた項目につきましては、まさに様々な分野に横断する、多くの分野に関連してくる内容を上げさせていただいております。

ですので、基本的にはこの分野横断課題の視点を持ちつつ、それぞれの分野の施策を考える、事業を考えるというそういうことになろうかと思えます。中には、今おっしゃっていただきましたデジタルの項目を分野別計画の中にも記載しているものも幾つかあるかと思っております。

産業については確かにデジタルというところがないというところもございますので、基本的には分野横断課題は全てに分かる課題ということで、前では整理させていただいているんですが、強弱の部分当然あるかと思えますので、少し検討もさせていただきたいと思えます。御意見ありがとうございます。

◎上村和生委員長
野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。協議会なので、検討するというこの話だったので、これ以上あまり申し上げませんけれども、あと、あえてちょっと他の委員会の分野に触れさせていただくんですけども、例えばですけども、10ページの「自治・人権・文化」という、これ総務政策委員会の分野ですけども、ここなんかですと例えば市長が何度か御答弁いただいているようにデジタル技術を市民活動にも生かしていこうということで、例えば地域コミュニティの中にもデジタル活用というのがあって、市民活動にもSNSを活用した団体運営とかこんなふうにあるんですけども、これが実際34ページの各分野における目標指標というところに来ると、一切デジタルのことが書いていないんですよ。

市として、今までに近いような目標というのが書いてあって、この辺がやっぱり横断的課題が、実際やって結果としてそれをどこで見るのかというところが、各個別の分野でそういったところを取らないのかというのが、ちょっと僕、この目標全体としてもっと横断的課題、デジタルにかかわらず、横断的課題を中心とした目標値をそれぞれの分野にもう一度持たせてもいいんじゃないかなというふうに思うんですけども、もう一回だけ御答弁をいただけますでしょうか。

◎上村和生委員長
情報戦略局次長。

●大西情報戦略局次長

分野横断課題のほうに何かしらの指標があると分かりやすいのではないかと、そういった御趣旨なのかなというふうに思っております。

今回モニタリング指標というのを新たに設けさせていただきまして、目標ではないんですが、状況の推移を見て取るのに、この程度は押さえておかないといけないだろうといったものを上げさせていただいております。

分野横断課題の中の指標といたしましては、このモニタリング指標に一部イメージができるものもあろうかと思いますが、いただいた御意見を踏まえて、再度ちょっとこの件についても検討させていただきたいと思っております。

◎上村和生委員長
野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。このモニタリング指標の中で、もしデジタルの話をするのであれば18番の情報取得手段のスマートフォンを使用する割合かなというふうには思うので、これで見られるかどうかというよりは、これは市長が、僕は思いを持ってつくっている計画だと思っているので、これが達成したときに、結果、市長がどんなまちを描いていて、そのとおりのまちになっているかというのが重要なことだと思っています。

なので、先ほどの産業なんかもデジタルを使った産業、例えば伊勢市内やったらどこでも、どこに行っても非接触式の決済方法が使えるよとか、そもそも市役所使えませんが、下の1階の売店。

そういったこととか、例えばまちを歩けばこういうふうにデジタルサイネージの掲示板がいろんな各企業が使っているとか、新道商店街は変わったなとか、そういうふうに見えるための補助金なり政策なりをつくっていく前提の資料だと思っているので、そういった意味では、もう一つ、二つ、強い努力をある意味では市民に求めてもいいかなというふうに思います。

次に、進行管理のことでちょっとお伺いをさせていただきます。

この進行管理なんですけれども、これはもう考え方だけお聞かせいただければと思うんですけれども、コロナで難しくなった事業というのがこの中に幾つか存在すると思います。特にここの所管であれば観光なんかの分野はC指標というのがついているんですけれども、これは最後どういうふうにとめるかのことでちょっと意見と、あと考え方をお聞きしたいんですけれども、意見は僕の意見です。

僕としては、これはCという形ですすぐ評価が返ってくるだけでは、例えば実際コロナ禍の中で違う政策を行ったことでこういった効果があった、ああいった効果があったというようなことも当然あって、例えば神宮参拝者数なんかマイナスなんですけれども、それに対し

て経済効果としてプラスになったことも当然あると思うんです。

そういう意味では、ある意味このコロナ禍のためにCとなっている指標に関しては、僕はある意味では、これは意見があるので正しいとは言いませんけれども、評価をしないというのも一つであって、その代わりこんなことができた、あんなことができた、C評価すらつけない。コロナ禍のため評価できずでもいいかなと思っているんです。

その代わり、やれたこと、やれなかったこととかで、実際の伊勢市の姿とか、実際に今の伊勢市の形がこうというのが見えるものにしたほうがひょっとするといいことがたくさんあるんじゃないかなというふうに思うんですけれども、この評価、このC評価というものをつけていくというのは、この考え方についてちょっと今、今後このままCという形で評価されるのか、このC評価、今受け取った側としてどんなふうに考えているかをちょっとお聞かせをいただけますでしょうか。

◎上村和生委員長

情報戦略局次長。

●大西情報戦略局次長

今回の評価につきましては、コロナの影響が確かに観光の分野でもほかの分野でも影響したもの、していないもの混在している状況かと思っております。

今回の評価につきましては、コロナの影響かどうかといったことは少し勘案せずといたしますか、実際の目標値に客観的に達しているのかしていないのか、どの程度達しているのかという点で評価をさせていただきました。

なかなかコントロールのできない外的な大きな要因であったということは確かに事実だと思っておりますので、それを受けて直ちにCなのかというそういった御意見かと思いますが、今回に関しましては、客観的な評価とさせていただいたところでございますが、この評価の仕方につきましても、検討も再度させていただきたいと思っております。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。これをもってすぐに例えば全体を見て平均だけ取ってこの4年間Cやったなみたいな話をするものではないと思うので、その辺はぜひとも何が正しいかはちょっと分かりませんが、いろいろな形でいろいろな方の、審議会も含め、意見を聞いていただいて、ぜひとも正しい伊勢市の今の評価とか現状とか、この4年間やってきたことというのをそれぞれ職員さんの努力を含めて評価をしていただければと思います。

最後にもう一点だけお聞かせをください。

4-1の7ページ、8番ですけれども、伊勢らしさの継承、魅力発信という形で出してくれてあるんですけれども、端的にお伺いしますけれども、伊勢らしさとは何でしょうか。

◎上村和生委員長

情報戦略局次長。

●大西情報戦略局次長

伊勢らしさの定義についての御質問かと思えます。

ここを記載するに当たりまして、少し考えたことについて触れさせていただきたいと思えます。

それぞれのまちには過去から育まれてきたそれぞれのまちの個性というものがあるのかなと思っております。伊勢のまちにも当然個性がございまして、その伊勢のまちの個性が伊勢らしさになるのかなと思っております。

ただ、具体的に、じゃあ伊勢らしさとはどういう状況なのか、どういう状態なのか、どういう事象なのかといったことにつきましては、人それぞれ捉え方に違いがあるかと思っております。

以前に市民アンケートを行なっておりまして、市民の方にアピールしたい伊勢市のイメージについてお聞きしたことがございます。そのときに、最も回答を多くいただいたのは、歴史と文化のまちという項目でございました。

また、ほかにもアピールしたい場所につきましては内宮さん、外宮さん、あとイベントとしてはお木曳の行事、あと食としては伊勢うどんということで、いずれにいたしましても、神宮さんが御鎮座されて、神宮さんと歴史を刻んできているということがやはり市民の方としても特徴として捉えているのかなというふうな印象を持ちました。これも伊勢らしさの一つだと思えます。

いずれにいたしましても、伊勢のまちの個性が伊勢らしさなのではないかというふうに考えております。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

その個性の中身を聞いているので、どちらかといえば、今、市の当局、もしくは市長が考えるその個性とは何なのかということが僕の聞いたかったことなんです。

先ほど御回答いただいた中に市民アンケートというような話がありましたけれども、さっきも言いましたけれども、この計画をもって行政がこれから、さっき言った補助金ついたりだとか、予算ついたりだとか、そういったことも含めて計画を持っていて、市民や事業者をリードして引っ張って行って、こういう方向にまちを持っていきたいという計画だと思っているんです、僕は。

そのための計画であるはずなので、例えば市民が考える伊勢らしさという方向に寄っていくのか、それとも、ある意味では市長が僕が思う伊勢らしさとはこうだからこれがいいと思う。もしくは、今まで生きてきた中でこういうふうに伊勢を感じているというふうな形で、だから、ここで伊勢らしさという表現を使っているのは、ある意味ではこんな伊勢をつくっていききたいんだよということなのかなというふうに思えます。

協議会ですし、いずれ議案で出てくるという話なので、改めてそのときに聞いてもいい

んですけれども、これはやっぱり僕はもっと行政がリードをして、この計画を基に市民を引っ張っていくものだというふうに僕は考えているので、ぜひとも個性の中身が何なのかというのをぜひ市役所、これをあえて、本当はさっき言ったとおり、市長が考えているものだと思うので、伊勢らしさ。

それを職員さんみんなが共有していないと、全員が持って同じ方向に進まないと、それぞれ伊勢らしさがみんな違うとなってしまうと市民が迷ってしまうので、みんなが伊勢らしいというのはこういうことで、こういうふうにまちをつくりたいんだ、伊勢らしさとは何ですかと言われたときに、職員さん全員が同じような、もしくは近い答えをできるような状況をぜひともつくっていただきたいなということだけ申し上げまして終わります。ありがとうございました。

◎上村和生委員長

他に御発言はございませんか。

宿委員。

○宿典泰委員

4-2のところで、ちょっとお願いしたいと思います。

7ページに自然災害への備えというところがあるんですけれども、その前に脱炭素社会の実現ということで、ここにも気候変動への適応策として、自然災害対策として河川云々というのがあるんですけれども、炭素社会ということでやるのか、自然災害でやるのかということ、ちょっと僕はここにも載っておんのやなという感じがしたんですけれども、そのあたりはどう捉えていったらいいのか、ちょっと。

◎上村和生委員長

情報戦略局次長。

●大西情報戦略局次長

6番の脱炭素社会の実現、それから7番の自然災害への備え、双方ともに地球温暖化の影響からもたらされている課題であろうかというふうに考えております。

確かに6番については環境の分野の中にも一定程度書いてあります。それから7番の自然災害への備えも分野別のほうにも個別にもありますが、やはりこの6と7につきましては、ほかの分野でそれぞれ施策の方向性を考える、あるいは事業立案していくときにも非常に大きな世界的な課題でもありますので、そういった視点を持って施策を進めるという、そういう考え方でこういうふうに設定をさせていただきました。

◎上村和生委員長

宿委員。

○宿典泰委員

そのあたりの脱炭素か自然災害かというところのこれがここへは備えだけですけれど、

備えと対応をするのかということなんですけれども、ちょっとやっぱり両方とも読まさせてもらおうと、何か混ざったような感じで、当然脱炭素であったら地球規模の話ですから自然災害の話まで及ぶんだと思うんですけれども、それでしたら、自然災害への備えということだけではなくて、対応についても述べていく話なんかなというのを感じましたので、一考してください。

それと自然災害の中にも現状と課題ということで地籍調査の話が出ています。私、毎回予算決算のときに、早く地籍調査をしないと、南海トラフのことだけではなくて、伊勢市の人口減であったり、高齢化の問題であったり、立会いすらできないというような状況の地域が増えてきています。

そんなことの中で、国の予算というようなことでやられておるのは、財政のほうも苦勞して予算化をしておるんだと思うんですけれども、一方、やっぱり財政が大変なのでそれを遅らせていくということについてもこの総合計画の中ではいかがかということになるので、これのパーセントの関係が出ておったので見てみると、地籍測量、これは93ページですよ、地籍測量の事業の推進ということで、0.1%ずつ何か目標値になっておるといふ、この目標値の上げ方ということについても、このあたりとの整合というのが取れておるんかどうかと言うと、私は取れていないと思うんですよね。

上げるなら上げるで、やはり目標値は15%、20%に上がって、今実際は9%しかできないというような状況なのか、その値の判断というのがどうなんかなと。

これは地籍調査の基本は固定資産税のことも絡みがあるので、きちっとした調査の中で固定資産も随分変わってくるところもあるかも分かりませんし、そういった所有者との間のことも含めて言うならば、僕はもうこれは本当に緊急事態で、早くやらないとだんだん面積だけで結果を出すという話には収まらんとしますよ。

大体もう相続の調査をしたら、もうすごい日数がかかるということになっていますから、それをこの全市の中で限られた地域で広げていくということなんで、これはもう大急ぎでやる話なんだろうと思うんですけれど。

だから、このいわゆる中期計画の課題にも上がっておる問題と、この実際のところのここについての違いというのが随分出ておるので、全然リンクしていないから、これだけを考えてもどうなんかなということなんですけど、そのあたりどのような考え方をされていますか。

◎上村和生委員長

どちらさんですか。お願いします。

用地課長。

●安藤用地課長

地籍に関しまして御質問を受けましたので、私のほうから説明させていただきます。

確かに地籍に関しましては、これは国の施策でして、伊勢市だけやなくて全国的に取り組む課題でございます。当然財源の確保もございまして、先ほどの指標ございました。

当初の総合計画では、市域全体の指標ともう一点重点地域といたしまして、一部災害地域を特化した形での指標として2段がけでさせていただいていました。

ただ、今回市域全体の一本化したんですけれども、これは国の事業ですので、第7次10か年計画というのは国の事業です。これに基づいて指標を一本化させていただきました。ただ、進捗としてはなかなか1割を切らない状況でございます。

その辺で、施策としまして当然災害の早期復旧も踏まえて取り組んでいかなければならない大きな課題でございます。これは財源も含めて今後進捗も上げていきたいと考えております。以上でございます。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

予算決算のときにでも、用地課からの御答弁の中で、やはり用地課としては予算を組みたいんだけど、外部的ないろんな状況の中で組めないというのがるわけでありまして。

だから、用地課頑張れというだけではいかん話なんですけれど、実際にはもうこの中期計画の中でこのような方針というのか計画として出ているのに、予算はちょびっとしかついていないということについてとか、そのあたりというのは財源のよしあしで計れる話なんか。

これはやっぱり、万一津波が来て流されたときに、復元をしてくださいよというのは伊勢市に来るわけですよ、法務局に行きませんから。そのときに市民に対してそういう補償ができるのかなと。いやいや図面も何もないもんで適当なんですわという話にならないでしょう、それは。

東北の震災でそれがもう随所に現れて、それで国交省のほうもこれは急がないかなということにはなっておるわけで、それは用地課だけの話でなくて、皆さんが共通して持ってもらう案件かなと思うので、そのあたりのことをもうちょっと重要に考えてもらいながらこの中期計画の案を示してもらっておるんだから、それをやってほしいなということなんです。

次に御質問申し上げるんですけれど、71ページなんですけど、先ほど農林のことが出ました。あと細かくもうすごい量なので、ここの評価だけの話を申し上げると、総合計画の審議会の指摘事項があつて、もうこれはこのとおりのことということで私読まさせていただきましたんですけれど、結果的には対応の状況というのは今後このようにやっていきたいということがここで示されておるんだと思うんです。

そういう理解をして言うと、そのブランド化についてもストーリー性の展開というのが、その答えがこの①でいいのかなと。②のブランド化に対して、指摘としては作付の面積であったり販売、いつも言うておる収支という収益ですよ、このような指摘があるんですけれども、結果的には6品目についてJ A伊勢や三重県との協議を行い目標云々というのが書いてある。こういうことが答えなのかなと。この5点もそうですけれども、このあたりのことをどのように作成されているのかということとか、協議会のほうで指摘をされたことをどういうふうに捉えておるのか。我々も会議出ていませんので、こういう意味やったのかというようなことも含めてちょっとお聞きしたいんですけれど。

◎上村和生委員長
農林水産課長。

●野中農林水産課長

ただいまの件についてお答えいたします。

ブランド6品目につきましては、J A伊勢などと協議を行いというところがあるんですけども、ブランド化という考え方は二つあると思うんです。

一つはすごくいい、高い品目を例えば東京の有名デパートなんかで1個何千円とかで売られるような物とかというのが一つ、もう一つは、産地を強くしていくといたしますか、それがJ Aなんかの考え方なんですけれども、伊勢でいいますと例えば青ネギとかイチゴ、ほかの6品目力入れておりますけれども、この地域全部を強くして、それをブランド化して売っていきこうというのがございますので、そこら辺をJ Aとか三重県と連携して協議しながら進めていきたいというふうな回答をさせてもらっております。以上です。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

今言われたことは分かりました。

ところが、やっぱりブランド化をしてその作付面積がどれだけ増えたのとか、販売の数量がどれぐらいになったのとか、それで収益がこんだけ上がった。これは何せブランド化をするだけの意味じゃなくて、農業者がどれぐらい収益を上げたんやというような結果の話だと思うんですよね。どれだけ上げさせるためにこういうことやということで。

だから、その話というのが、答えがこちらかなというのはちょっと協議としては、協議やっておけばいい話やないので、そんなことを思います。それはちょっとやっぱり書き方の問題もあってするか分かりませんが。

それと、鳥害の被害なんですけど、三重大と連携して研究・研修していくということですけども、これはもう既に全国でいろんな形で対策が組まれておりますけれど、三重大とやるのは今さらかという感じがしてなるんですけど、これは新しい手法の中で何か三重大との連携を取られるということなんでしょうか。

◎上村和生委員長
農林水産課長。

●野中農林水産課長

現在も三重大と引き続き連携をして協議を進めている状況でございますけれども、具体的には、また今後予算化もまだこれからなんですけれども、次年度でお認めいただきましたら、さらなる担当と詰めさせてもらいまして、その辺を進めていきたいと考えております。以上です。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

分かりました。指摘事項に対する対応としての答えが、やっぱり私らもこの文書で見ただけなので、もうちょっと的確な方向というのか、方法を書いていただきたいなど、そんなことを思います。

あと、農業の中心になっているのが何か認定農業者を増やすことみたいな感じでしておるんですけど、国の方針の認定農業者制度の概要というのを見て何度も読むんですけど、これは大体国としてはもうあらゆるところで法人化をどんどん進めたいということに読めて仕方ないですよ。だから、個人の認定農業者を登録させて増やすということだけではなくて、法人をどれぐらい作ったんやということなんかなということに非常に思うんです。

それが、伊勢の地域に合うのか合わないのか、マッチできるのかということとはちょっと私も分かりませんが。そんな中でそういうことをやればいろんな予算化をしますよと、各種の支援があるということなんですけれど、何かそのことが果たして農業を本当に今ある現状から引き上げてやっていくということには、どうもつながらんですよね。そのあたりはどのような読み方をしておるのか、ちょっとお聞かせをください。

◎上村和生委員長
農林水産課長。

●野中農林水産課長

今のお考えなんですけれども、まず、小さな農家がなかなか農業をようしやんようになって、まず地域の担い手さんをお願いするという流れがあります。その次には、その地域の担い手さんが高齢化してなかなか農業を続けられないということになってきますので、その次の受皿として農業法人なんかが考えられると思います。そこら辺の施策を進めていくというふうになっております。

認定農業者といいますのは、地域の農家の方でお金まで借りてどんどんやっていこうという方ですので、その方たちを増やしていくのは農業の振興につながっていくと考えております。以上です。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

それはまたある時期になったら、農業の認定農業者を増やしたからこれだけの作付が広がり、また、それに対して収益がこれぐらい増えたんだというようなことを見せていただくともう少し分かりやすいのかなと思いますので、またそれは次の時間をお願いをしたいと思うんですけれど。

いずれにしても、ここに出ておるA・B・Cのランクづけの話、各事業の中で全部あると思うんです。今回はコロナ禍の関係で非常にその評価ができにくいということは、これはもう私も改めて分かるんですけど、実際にはコロナであろうがどうであろうが、やっぱり中小企業も含めていろんな事業展開を自社で考えていろいろやっておると思うんですけど、その評価というのほどこへ表れてくるんかなと、こんなことを思うんですけど、このA・B・Cランクのこれだけで、ちょっと中身が不足しておると思うんですけど、どのあたりへ表れてくるんですかね。

◎上村和生委員長
情報戦略局次長。

●大西情報戦略局次長

進捗状況の評価についてなんですが、A・B・Cと3段階で客観的に区分をしております。その進捗状況に対する内容の説明と申しますか、状況の説明、評価に至った理由等につきましては、それぞれ進捗状況に対する説明というところで書かせていただいております。

なかなか詳細に全てが全てちょっと書き切れていないところもあろうかと思えますけれども、基本的には評価に対する考え方ということをこちらの欄で一定程度ちょっと書かせていただいております。以上でございます。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

もう最後にしますけれども、例えば75ページに中小企業の支援というのがあります。これは中身何かと言うと、商工団体における経営相談の件数なんですね。5,180件ということで、令和3年は相談件数が伸びておるという話だとは思いますが、実際この相談件数が伸びるということは評価としてはどういうことかと言うと、いろいろ相談をする件数が増えてきたということで、そのことは自分のところの事業としていろいろと事業を広げていくのに悩みがあって相談をしておるものなのか、そもそも中小企業としていろいろなほかの財政的な面やらほかで悩みがあるから伸びてきたのか、2種類も3種類もあると思うんですけど、このことがその中小企業の支援にそうつながっておるのかどうかというのがちょっと首かしげるわけですよ。

中小企業支援というのか、支援があっても、いやいやそんな相談をするようなあれじゃないんやということで、何も相談件数がゼロに近づいてくるのも、それも一つの、ほかできちっと支援をしておるからええんやということなのか。

ちょっと何か指標になるこういうことが、件数が伸びたから支援がすごく大きくなっておるとは読みづらいわけですよ。

だから、中小企業の支援については、相談件数が云々ということが指標になるのかどうかということもちょっと疑う話なので、ちょっとそのあたりの意見だけ聞かせてください。

◎上村和生委員長
商工労政課長。

●東世古商工労政課長

先ほど委員おっしゃっていただいたとおり、例えば第二創業、業態を転換することであつたりとか、あと事業をそもそも継続していくというところで、いわゆる事業を大きくしていくための相談、それに向けての例えば補助金の活用等々であつたりというような事業を大きくしていくような相談もあれば、やはり高齢化等々によりまして事業そのものを廃止、それから、どなたかに継承していただくと、背負っていただくような相談、そういったどちらかと言うと縮小していくような相談、それぞれあつての相談件数であるというふうには考えております。

やはり先ほど来から伊勢らしさということでお話もいただいておりますけれども、伊勢市に根づいたような技術、事業、そういったところへの若者への情報発信、そういったことも含めながらいろんな事業のほうらせていただいておりますけれども、やはり種々、特に現状ですとコロナによる相談件数の増加、そういったことも見られますので、引き続き事業を続けていっていただけるよう雇用の場の確保、そういったことも含めて、今後また考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

分かりました。5,180件伸びたということですから、その相談内容というのか、それをやっぱり分析をしていただいて、我々の目に留まるようにちょっとそのあたりのことも出していただいて、中小企業の支援にそれがつながっておるかどうかということも評価をしたいと思うので、ちょっとそこら辺の分析結果も待ちたいと思っております。以上です。

◎上村和生委員長
他に御発言は。
野口委員。

○野口佳子委員

今、宿委員のほうからは農林業のことを質問されましたんですけれども、私は水産業のところでちょっと質問させていただきたいと思っております。

水産教室や料理教室の開催、就業・就農フェアへの出展などの水産業、漁業を支える担い手の確保育成事業によって、新規就農者の確保に取り組んでおりますが、即戦力となる人材の確保には至っていないとあるんですけれども、これはどういうことなんでしょうか。71ページです。

◎上村和生委員長

農林水産課副参事。

●徳田農林水産課副参事

すみません、なかなか漁業者の数が増えないというか減ってきておる状況でございます。対策としまして料理教室であったり、水産教室であったり、県で行われている就業フェアへの参加もさせていただいています。

そういう中で、なかなか全体的な人口も減ってくる、高齢化ということも進んできておる中で、なかなかやっぱり実情としては大変厳しい状況であるというふうな中で、なかなかその効果につながっていないというふうな実情でございます。以上です。

◎上村和生委員長

野口委員。

○野口佳子委員

水産教室とか料理教室なんかは子供さんたちにもされているのではないのでしょうか。

◎上村和生委員長

農林水産課副参事。

●徳田農林水産課副参事

水産教室につきましては、小学生の高学年を対象に実施させていただいているところでございます。

ただ、料理教室につきましては、当初大人を対象にしていたわけですがけれども、子供さんも同じように参加をさせていただくというふうなことも工夫をさせていただきまして、推進はさせていただいているところでございます。以上です。

◎上村和生委員長

野口委員。

○野口佳子委員

本当に水産教室とか料理教室なんかをして、この水産のところにもいっぱい力を入れていただいておりますけれども、そのほかには何かいい方法というのか、やっていることはないのでしょうか。

◎上村和生委員長

農林水産課副参事。

●徳田農林水産課副参事

あと素材のPRとかということで、都会のほうに出向いて伊勢市の産物というのをいろ

いろとPRもさせていただいておるんですけど、近年のちょっとコロナ禍というふうなこともございまして、ちょっと今なかなかそういうふうな実現には至っていないところでございます。

そう言いながらも、特に水産物、特に基盤となるのが漁港でございます。そういったところを計画的に保全しながら漁業者様の安定的な漁業を計画していきたいということで、新たな今回の指標にもなっておりますが、そこら辺で基盤的なところでの目標として支えていきたいと、そういうふうにも考えております。以上です。

◎上村和生委員長

野口委員。

○野口佳子委員

ありがとうございました。よろしく願いいたします。

◎上村和生委員長

ほかにございませんか。

川口委員。

○川口浩委員

中期基本計画案の中で、分野別の横断課題として人口減少・少子化への対応がおかれている。これを市が重視しているというのは理解しています。

その上で、対策として人口減にストップをかけて、歯止めをかけて、転入者、移住者、定住者を増やしていくということであると思うんですけども、その際どうなんでしょうか。私個人的にはあまり好きな言葉ではないんですけども、自治体間の競争というのが現に人口を増やしていく、ほかからの転入者などを増やしていく上であるかと思うんですけども、そういった外からの目線と言うんですかね、転入者とか定住を意識されている方からの目標指標の設定と言うんですかね、その辺はどうお考えになっているんでしょうか。ほかの自治体と比べて伊勢市が優れているとかという打ち出しも必要であるかと思うんですけども、よろしければ教えてください。

◎上村和生委員長

情報戦略局次長。

●大西情報戦略局次長

ほかの自治体との比較で、伊勢がこういったところが優れているといった、そういった指標というのを例えば暮らしやすさであるのか、あるいは子育てのしやすさであるのかというそういった実感のようなもので比較するということが一つ考えられるのかなと思っております。同じような問いかけをほかの市町でもしていれば、そういったことで比較は可能なのかなと思ってます。ただ、なかなか客観的な要素で比較するということが難しいのかなと思ってます。

あと、もう一点が移住の話ですね。伊勢に引っ越しをされてくる移住の方がどれぐらい、ほかのまちと比べて多いのかといったこと、それにつきましては、例えば県内ぐらいであれば数字としては持ち合わせておるようなところもありますので、比較ができないことはないのかなと思っています。

ただ、現状におきまして、なかなか指標を設定するということまでにはちょっと至っていないというのが現状でございます。以上でございます。

◎上村和生委員長

川口委員。

○川口浩委員

ほかの委員会の所管にも関わってくるので、あまり個別具体的なことはしませんけれども、例えば子育て支援の充実度といったことを見た場合、これを見ますと、指標のところ、伊勢市は子育てしやすいまちであると感じている市民の割合という目標設定があったり、あるいは雇用環境、新規開業のしやすさとか起業のしやすさだとか含めて見ますと、例えば産業・経済のところ、就労・雇用のところで伊勢公共職業安定所管内の有効求人倍率というのがあるんですけども、ちょっとこの辺目標の設定が足りないというか、もうちょっとあってもいいんじゃないかなというふうに、ちょっと率直に思ったんですけども、いかがなんでしょうか。

◎上村和生委員長

商工労政課長。

●東世古商工労政課長

就労・雇用のところでの指標の設定でございますけれども、こちら審議会のほうでももうちょっと具体的、特にいわゆる若者、やはりおっしゃっていただいたように定住、学校を卒業してそのまま伊勢におっていただけるような若者のいわゆる就職率、そういったところが指標にできないかということで、実は御意見も頂戴いたしました。

ただ、直ちにそういったところが把握できる手法というのが、ちょっと即座には見いだせませんでしたものでしたから、今のところ公表されておる伊勢管内での一応有効求人倍率という形で設定させていただきましたので、御理解いただきたいと思います。以上です。

◎上村和生委員長

川口委員。

○川口浩委員

ありがとうございます。私自身……

◎上村和生委員長

川口委員、大分かかりますか。

○川口浩委員
すぐ終わります。

◎上村和生委員長
川口委員。

○川口浩委員
私自身5年前に転入してきた立場ですので、以上のような質問をさせていただきました。定住とか移住に関してはPRの問題でもあるので、その辺引き続き重視して取り組んでいただければと思います。ありがとうございました。

◎上村和生委員長
ちょっと暫時休憩いたします。

休憩 午後0時02分
再開 午後0時02分

◎上村和生委員長
休憩を解き、会議を再開いたします。
13時まで休憩いたします。

休憩 午後0時02分
再開 午後0時58分

◎上村和生委員長
休憩前に引き続き会議を開きます。
他に御発言はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長
御発言もないようですので、本件についてはこの程度で終わります。

【空家等の対策について《報告案件》】

◎上村和生委員長
続いて、報告案件に入ります。
「空家等の対策について」、当局から報告を願います。
住宅政策課長。

●城住宅政策課長

それでは、「空家等の対策について」、現状と今年度の取組状況について御報告申し上げます。

資料5を御覧ください。

まず、1の「空家件数の推移」についてでございます。この表は平成27年度以降の空き家件数の推移を表したものでございまして、令和3年12月末現在の市内の空き家件数は2,494件と把握しております。

次に、2の「令和3年度取組状況について」でございます。

(1)の空き家等の適正管理を進めるための啓発活動といたしまして、4月には固定資産税の納税通知書約6万通に啓発チラシを同封いたしました。また、新しい取組としまして、8月からは後期高齢者医療の保険料納入通知書にもチラシを同封しております。この通知書は主に被保険者死亡による保険料の変更通知でございまして、空き家の相続について考える機会となると捉え、同封をしております。また、年末年始の帰省のタイミングである12月に試験的に厚生地区の空き家に空き家バンクへの登録物件を促すチラシを戸別配布したところでもございます。

次に、(2)の空き家バンクの運用状況についてでございます。

①の登録数につきましては、12月末時点で22件の物件登録と219件の購入、賃貸希望者の登録をいただいております。

②の登録後の成約数につきましては、今年度は12月末までに表の上段、物件登録後にバンクにおいて成約した案件が7件ございました。また、バンクへの登録後に民間の不動産会社等を通じて成約した案件も表の下段のとおり6件ありましたので、合わせて13件の空き家を新たな利活用につなげることができたという状況でございます。

③の内見数は購入または賃貸希望者が登録物件を見学、内見した延べ件数でございます。

次に、(3)の管理不全空き家の所有者等に対する管理依頼の状況についてでございます。管理不全となっている空き家の近隣にお住まいの方や自治会などからの申出を受けて、市で空き家の持ち主を調べて、訪問や文書による管理依頼を今年度は延べ327件行いまして、以前からの継続案件も含めて261件で問題が解消されたことを確認しております。

次に、(4)の特定空き家等の認定状況についてでございます。今年度は12月までに新たに2件を特定空き家と認定した一方、1件については市の働きかけに応じて所有者により除却、解体されたため、認定を解除しました。平成29年度以降に認定した13件のうち7件を解決につなげることができております。残りの6件につきましても引き続き解決に向けてさらに指導を行っているところでございます。

最後に、3の「空家等対策計画について」でございます。第2期計画の策定につきましては、昨年8月に当協議会で計画案について御協議いただきまして、12月には伊勢市空家等対策協議会において承認の答申を受けました。今年度末までには計画書の公表、配付を完了し、来年度以降引き続き計画に従って空き家対策に取り組んでまいり所存でございます。

以上、「空家等の対策について」御報告いたしました。よろしく御願い申し上げます。

◎上村和生委員長

本件は報告案件ではありますが、特に御発言がありましたらお願いします。

野崎委員。

○野崎隆太委員

すみません、報告案件ですので、ちょっと簡単に教えていただければと思います。

空き家が減っている状況、この数字だけ見ると結構減っているなので、よく頑張ってくれているなというふうにも思うところもあります。

当然ながら残った空き家のほうが恐らく問題を抱えている箇所が残っているので、これからも余計問題は増えるかなというふうにも思うんですけども、この（１）の空き家等の適正管理を進めるための啓発活動、これ試験的にやってもらったというふうな記載もあるんですけども、実際この辺は費用対効果という意味ですけども、やってみてどうだったかというのはいつ頃結果は出てきそうですか。

◎上村和生委員長

住宅政策課長。

●城住宅政策課長

今回厚生地区をさせていただいたというのは、物件の登録自体がいわゆる中心市街地の物件が少ないものですから、厚生地区の空き家数が相対的に多いということもありましたので、試験的に抽出をして、どういう反応が出るかは分からないですけども、1回投げ込みで動いてみようかということで試験的に行ったものです。

件数につきましては、厚生地区では約200件空き家があるんですけども、結局回ってみて分かったことなんですけれども、チラシさえ入れられないような状態の家とかが約半分ありましたので、100件に投げ込みができたということでございます。

ですので、それに対してちょっと結果がどうであったかということまでは、正直分かってはおらないんですけども、今後ももう少し範囲を、違う地区を対象にやってみるとか、そのようなことを計画はしていきたいというふうに思っております。

◎上村和生委員長

野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。今のお話からすると、管理されていない空き家も含めて全部抽出を、ある意味では管理されていない、郵便受けとか、抽出したということで、チラシを見てもらったかどうかもちょうと確認するのが実質難しいというような形かなというふうにも思うので、かと言って、これをやめろというつもりもありませんし、ほかにいい方法があるわけではないですけども、続けていただいているいろんな努力の中、徐々に空き家を減らしていただければと思います。

特に先ほど課長おっしゃってもらったとおり、都市部の空き家であるとか、結構団地でも隣がきれいな家で、そのすぐ隣が空き家とかいうことになっている団地も、うちの小俣町も含めて結構あって、なおかつ地価の減少とかが気になるところもあるので、僕よりも

よく御存じやと思いますけれども、いろんな地区を見ていただいて、ぜひともまちの景観とか美観とか、地価の向上にも何か振興するようなことを一つずつやっていただければなというふうに思います。もう結構です。

◎上村和生委員長

他に御発言はございませんか。

宿委員。

○宿典泰委員

私のほうは、特定空き家のことでちょっとお伺いをしたいと思うんですが、これはもう以前から特定空き家に指定をされながら、なかなか相続等々で前へ進んでいないというような案件があります。

その1件についての状況というのか、ちょっと御報告願えませんか。

◎上村和生委員長

住宅政策課長。

●城住宅政策課長

宿委員おっしゃられておる物件についてでございますけれども、ちょっと動きのほうを御報告させていただきたいと思います。

原則として所有者の責任において建物等の管理はしていただかないかんということで、問題を自主解決していただけるように、家屋と土地の関係者それぞれに指導を継続しております。

まず、家屋所有者に対しましては、所有者さん本人への指導はもちろんのこと、戸籍等の調査をしまして、新たに確認できた近親者の方にも物件の現状を文書と口頭で説明しております。改善を指導しました。その方からも本人に働きかけるという回答を今いただいているところです。

また、土地所有者の相続人のうちの1人に対しましては、土地ということで樹木、大きな大木がありますので、樹木の管理に必要と思われる概算費用を示すなど、具体的な管理方法を明示して、その方が動きやすいようにということで管理方法を明示して指導しております。

先方からは、こちらは相続人が複数おりますので、その方と相談をするというふうに伺っております。現時点では様子を見ているという状況でございます。以上です。

◎上村和生委員長

宿委員。

○宿典泰委員

もう一点、その状況の中で、いつからこれは今現在になっておるんですか。

◎上村和生委員長
住宅政策課長。

●城住宅政策課長
平成30年からの案件になっております。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

何を言いたいかというと、国のほうでは空家対策特別措置法というのができて、これだけではなかなか所有権という中で悩んではおったんですけども、実際には特定空き家について、最終的には略式代執行であったり、行政代執行やというようなことに移るところまでできるんだよということに法律的にはなったわけですよ。

それで、何を言いたいかというと、やはり平成30年に、いわゆる言うていただいているような物件が現れたわけではなくて、その以前の20年以上前からこういう状況があって、両隣の人は非常に、木の成長も含めて問題視をしておるわけでありまして。

その一方で、行政側としては、やはり所有者に対して丁寧に、相続権のある方に申し送りをして、こういう状況なので撤去等について図ってくれというようなことで丁寧にやられておるとは思うんですね。

でも一方、現地の両隣の方にとっては一日一日が枯れ葉の掃除から始まり、そんな状況になって非常に危険を感じておるわけでありまして。

それで、何を言いたいかというと、この方々、建物の所有者、土地の所有者に対して期間を決めて、やはりその今回の処理できるような状況のことをやらないといかんと。

私、他市のことを調べたんですけど、それはまた皆さん情報等は持つておると思うので見てほしいんですけど、例えば他市の中では公告を4月10日にしましたと。8月17日は略式の代執行をしますよということで工事に入って、工事完了が10月の、そのときは20日と出ていましたかね。ということになると、もうほとんど半年の間にそんなことがやられておるといような事例もあるんですね。

それはそこの市に行って、我々も確認せないきませんけれども、実態としてはそういう状況ができるということになったときには、この方らはその話は聞いてもらっておるけれども、それ以上のことに進むかどうかというのはまた未定の話であって、そういったときにやはり撤去の指導をする、勧告をしていく、命令をする、戒告というのか行政執行しますよという通知を出すというようなことを、やっぱり今からまたやるということになると、これもまた何か月、何年かかるのかなというような話になるので、そのあたりの期限を切って物事を考えるというようなやり方というのはどうなんかなと思うんですけど、ちょっと意見だけ聞かせてください。

◎上村和生委員長
住宅政策課長。

●城住宅政策課長

この物件につきましては、非常に時間がかかっているということは重々承知をしております。近辺の方々にも大変迷惑はかかっているということも承知をしております。

ただ、今現在、家屋所有者とその近親者、それから土地所有者の相続人に改善の指導をしております。現時点ではその指導に対しまして関係者の、僅かではあるんですけども、反応とか動きがございます。また、その直近の指導からあまりまだ時間がたっていないということがありますので、先ほど委員がおっしゃられたような行政執行の方向へ、今すぐその段階へ進むということは考えてはおりません。

しかし、これまで指導は進めてまいりました。それから、権利者の関係もほぼ絞られてまいりました。その上で、今指導を進めておりますので、そう遠くない時期に今後も今までどおり粘り強く働きかけを、指導を進めていくのか、それともいわゆる代執行に向けて手続を進めていくべきかということを決断しなければならないであろうというふうには認識をしております。以上です。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

いや、もう行政側のほうでいつ幾日までというようなことは決められんことは、もう僕も百も承知。でも、もう今に至るまでにこれもう何十年もしながらやってきた物件だけに、せっかく特措法ができて、行政側からの考え方としても動くような状況になっても、また所有者等の話しをぶり返しながらやっていくとなると、これもまた何年かかるんやろうなと。

その間も隣接地の両側の方については、もう危険も相まってしておる話ですし、火事なんか起こったら、もう当然ですけども、この間にこんな延びてしまって、何か起こったときに、これは行政側の責任としてやっていくということになるんですかね。

僕は、もうそういうことになってしまいかねないので、ですので、やはり行政としてももう少し強い態度で期限を切りながらやらないといかんのではないかと、こう思っておるわけですけど、責任は伊勢市に僕はするために言うておるわけではないんです。でも、結果的には何か問題が出たときには、君らがずるずるやっていたせいやないかということに言われかねんというような状況にも今陥っておるわけですよ。

そのあたりはもう少し積極的な対話をやっていかないと、私も相続問題、違う形でちょっと関わりをしながらやっていますけれども、なかなか時間かかりますよ。それが何人もおって、土地も違う、建物も所有者が違うとなれば、これはそんな簡単な話ではないと思います。

幾らその中で何人かがやる気があって、きちっとしますという返事があったとしても、1人のその所有者がそういうことに対して何かものごとということであれば、これはもう難しい話です。

次長、どうですか。

◎上村和生委員長
都市整備部次長。

●荒木都市整備部次長

この案件に対する対応と対策ということにつきましては、ただいま課長の申し上げたとおりでございますが、委員おっしゃられるように、いたずらに時間をかけて、丁寧ということとは必要であるものの、逆に時間がかかることによって近隣の方、非常に危険であったり、また、万が一の火災等そういったこともございます。

やはりそこに時間的な目標というかそういったものを、私どもも描きながら、そして、その所有者等にそういったことも伝えて、これまで以上に喫緊に解決すべきであるというようなことを訴えていきたいなど、そのように考えております。以上です。

◎上村和生委員長

よろしいですか。

他に御発言はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長

御発言もないようでありますので、本件についてはこの程度で終わります。

【流域関連伊勢市公共下水道事業計画（第5期）の変更について《報告案件》】

◎上村和生委員長

次に、「流域関連伊勢市公共下水道事業計画（第5期）の変更について」当局から報告を願います。

下水道建設課長。

●松田下水道建設課長

それでは、「流域関連伊勢市公共下水道事業計画（第5期）の変更について」御報告申し上げます。

資料6の1ページを御覧ください。1つ目の「経過について」ですが、現在進めております事業計画（第5期）につきましては、平成30年11月19日に開催いただきました産業建設委員協議会におきまして御協議いただき、上下水道事業審議会を経まして、その結果を本協議会へ御報告申し上げます。その後、法定手続を進めまして、令和2年4月から事業に着手しております。

続きまして、2つ目の今回の「変更の内容について」です。資料につきましては、2ページに下水道事業計画区域を表した図面を添付しておりますので、1ページの中段の拡大処理分区一覧表と併せて御覧ください。

これまで第1期から第5期を含めた区域で下水道の整備を進めてまいりまして、現在緑色で着色した区域で下水道が利用できるようになりました。また、桃色で着色した区域で、

第5期の期間として令和7年度に向け整備を進めております。今回、赤色で着色した区域を新たに事業計画区域に含めるものです。

第5期の事業計画区域として既に事業認可を得ています緑色と桃色で着色した2,299.8ヘクタールに、新たに赤色で着色した182.6ヘクタールを追加しまして、2,482.4ヘクタールに変更いたします。

追加箇所につきましては、拡大処理分区一覧表にお示ししたとおりです。

①につきましては、中村町地内で既に下水道が利用でき、おおむね整備が済んでいる区域について、現在の市営の単独の汚水処理から流域下水道へ統合しようとするものです。この統合により、施設の最適化に取り組むことで、汚水処理に係る経費の節減、老朽化等のリスクの軽減を図りたいと考えております。

②につきましては、伊勢広域環境組合の新ごみ処理施設の建設予定地を事業計画区域に含めるものです。

③につきましては、9月定例会で議決いただきました小俣町湯田地内につきましては、玉城町の下水道施設を利用する地区を事業計画区域に含めるものです。

続きまして、三つ目の「今後の予定について」です。

本日御報告申し上げました事業計画（第5期）の変更につきましては、上下水道事業審議会でご審議いただき、法定手続を進めてまいりたいと考えております。

以上、「流域関連伊勢市公共下水道事業計画（第5期）の変更について」御報告申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

◎上村和生委員長

本件も報告案件ではありますが、特に御発言がありましたらお願いします。

宿委員。

○宿典泰委員

一つだけ聞かせてください。

結局、内宮第8の処理区というのはフレックスプランでやったやつですよ、それで単独でやっておると。これを公共下水道のほうにつないで、これから面倒見ていこうということなんですけれど、その工事費がどれぐらいかかって、それと、言われるように経費削減になったというのは、一体いつまでの年度の中で幾らぐらいというのは出されておると思うので、ちょっと教えてください。

◎上村和生委員長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

こちらの図面にあります区域を流域下水道に接続するに当たりましては、伊勢市のほうで事業費としましては約6億円ほど必要になってきます。補助金のほうが、事業認可されることによって補助金が入りますので、自前としましては約3億円になります。

それから、経済比較でございませうけれども、目標としては令和8年度を目指しております。

して、我々としましては、令和9年度以降幾らぐらいかかるかというのを精査しましてこのような決断を下したわけですが、この中村浄化センターが現時点でも供用開始をしましてから20年以上たっております。

それで、特に機械設備につきましては今まで修繕等で対応してはりましたが、耐用年数も過ぎてまいりますので、丸々と交換という、新しい物に交換してきますと、約20億円規模で交換費用がかかってきます。

そういったこともありまして、今回このような決断を下しておりますが、効果額としましては、この10年間このまま維持管理をしたり、今度流域にかかった維持管理費と経済比較をしますと10億円以上は、10億円から20億円にかけて費用対効果があるのではないかと考えております。

将来に向けての経費が削減されるという意味で、よろしく申し上げます。

◎上村和生委員長
宿委員。

○宿典泰委員

また、そういった試算のことも含めて、ちょっとまたペーパーで出せるものがあるんやったらよろしく申し上げます。ありがとうございました。

◎上村和生委員長
他に御発言はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長
御発言もないようですので、本件についてはこの程度で終わります。
暫時休憩します。

休憩 午後 1 時22分

再開 午後 1 時24分

◎上村和生委員長
休憩前に引き続き会議を開きます。

【管外行政視察について】

◎上村和生委員長

それでは、「管外行政視察について」御協議を願います。

本件につきましては、例年5月頃に実施しておりますが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、現時点では見送りとさせていただきたいと考えております。

なお、今後視察が行える状況になったときには、また判断をし、本協議会において改めてお諮りをしたいと思いますけれども、どうでしょうか。御発言はございませんか。

よろしいですか。

宿委員。

○宿典泰委員

委員長言われるように、5月以降というのは、5月に行かならんことないので、いつもそのあたりがうちの議会の中で、どうしても一番皆さんが行ける時期だなというようなことでいった話であって、あまり5月にこだわらんでも、今言われたように、これからコロナどういう収束になるか分からんので、その時点というのもまた難しいんですけど、そのあたりでいつ頃決めるかというのを再度やったらどうですかね。

それはまたこの管外行政視察だけで集まってもいいので。

◎上村和生委員長

と宿委員のほうから発言ありましたけれども、5月の部分については一旦中止ということで、その以降のところで行けるときになりましたら、皆さんのほうからも御意見もいただきたいと思いますので、そういうことで、今回5月については中止とさせていただきます。次の6月議会までの間には行かないということでさせていただきますと思います。

これほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長

御発言もないようですので、お諮りいたします。

管外行政視察につきましては見送りといたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生委員長

御異議なしと認めます。そのように決定いたしました。

以上で本日御協議願います案件は終わりましたので、これをもちまして産業建設委員協議会を閉会いたします。

閉会 午後1時26分